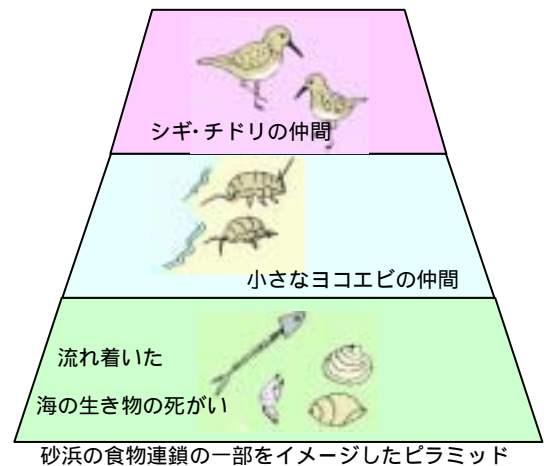


はまぼうふう vol.24 2007.10.18.

石狩浜海浜植物保護センター通信

生き物どうしのつながり ~秋の浜の光景~

砂浜で…9月1日の観察会で、砂浜を歩きました。シギの仲間のトウネンの群れが波打ち際に降り立ち、せわしく何かをついばんでいます。トウネンが去った跡を見ると、小さなヨコエビの仲間が盛んに飛び跳ねています。トウネンはこれを食べていたようです。さて、また少し歩くと、波打ち際に小さな小魚が無数に打ち上げられていました。よく見ると、先ほどの小さなヨコエビの仲間が死んだ小魚に群がって、それを食べていました。私たちは、砂浜の食物連鎖を垣間見ることができたのです。



草原で…浜を観察しているボランティアさんから、ノネズミがハマナスの実をくわえて走っていく姿をみかけた、と報告がありました。この時期、散策路に落ちているキツネの糞にも、ハマナスのタネが混じります。一面に広がるハマナスの実は、私たちの目を楽しませてくれるだけでなく、浜の動物たちのかけがえのない食糧であることがわかりますね。

お知らせ

海浜植物保護センターで展示しませんか？

今年の春からセンター展示室に設けた「みなさんの展示コーナー」。今年は、野鳥・植物の写真や絵、調査の結果報告、昆虫標本など8回にわたって展示することができました。

みんなに知ってもらいたいこと、みんなに見てもらいたいものなど・・・保護センターで展示しませんか？

展示スペース：180×90cm 移動パネル1面分から最大6面分

展示期間：一ヶ月間程度。作品は返却します

募集対象：どなたでも。(石狩市外の方もOK。)

応募は随時受け付けます。当センターへお気軽に問合せ下さい。

本誌に掲載！

みなさんからのレポートお寄せ下さい。
今月号から、紙面にボランティアレポートのページを設けました。

- ・浜などでの活動の紹介や報告、PR
- ・観察、調査して気づいたこと、わかったこと、興味深いことなど
- ・海浜（海岸）や海に関する情報諸々
- ・海浜と海、川、森、そして人とのつながりに関する情報諸々

このようなことについて、何か言いたい、伝えたい、という方、本通信へ原稿をお寄せ下さい。基本はA4、1ページ分です。前後しても構いませんが、誌面との関係で、当センターで編集することもあります。

冬の石狩浜情報受発信

年中吹雪・・・？

本当にそうでしょうか？

石狩浜のライブ画像
HPで配信中

自然情報カメラを冬の間も設置します。
冬の石狩浜の様子をぜひご覧ください。

自然情報お寄せください。

メールなどで冬の石狩浜の自然情報をお寄せ下さい。いただいた情報は、センターHP等で配信させていただきます。アドレスは本誌の最後をご覧ください。

さて、今年から海浜植物保護センターは、「海辺」と「海」、それらと「人」とのつながりをテーマの中心に据え、展示室のリニューアルと合わせて、様々な事業を展開しています（詳しくは通信第22号をご覧ください）。これを機会に、知っているようであまりよく知られていない（と思います）「海」について、「人」との関わりを含めてお話をしていきましょう。

…日本は島国？それとも海国？…

みなさんは「海」というと、どんなイメージを持っていますか？

漁業資源の供給源でしょうか、近頃言われている地球温暖化の原因、二酸化炭素の吸収源でしょうか、それとも母なる海でしょうか。外国でも海といえば母をイメージすることもあるようです。海は、陸からも空からも、直接、間接にいろんなものが運び込まれ、決して拒むことはありません（でした）。また、地球上の最初の生物は海から生まれましたし、こういったことがすべてを包み込む、受け入れる、生命を生み出すというところからくる母親のようなイメージでしょうか。

地球は水の惑星ともいわれるように、地表面の約7割を水で覆われています。しかも、そのうち97%が海水で、淡水は残りわずか3%です。地球は「海水」の惑星なのです。

ですから、海と私たちは、切っても切れない関係にあります。それに、石狩は古くは海、川を暮らしの生業の場としてきましたね。

石狩市の眼前には、石狩湾新港から浜益まで、ブロックの人工護岸、砂浜やれき浜、岩礁などの自然海浜合わせて約74kmの海岸線（北海道本島の2.4%、全道で海に面する市町村中第5位）を持っています。このような陸に近い海は、沿岸海域といい、陸域との関わりが大きく、漁業の他、海水浴、潮干狩り、散策、釣り、ヨット遊び等、古くから身近にある海辺空間として親しまれてきました。

さて、ここで少し基本的な海に関するデータを見てみましょう。

いったい日本の海岸線総延長は、何キロメートルになるでしょう？

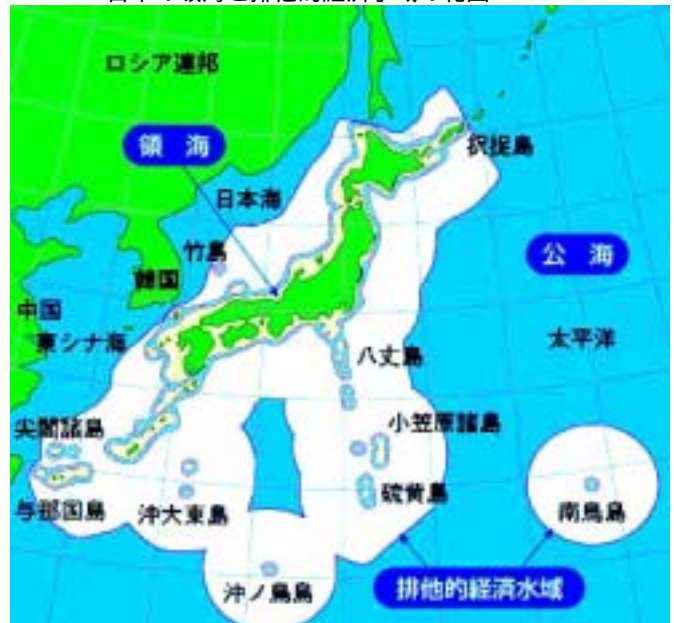
海岸統計(国土交通省)では、離島6,847島を合わせて約3万5千km、世界6番目の長さにもなります。ちなみに、都道府県別では、我が北海道が約4,390km(北方領土含む)で第1位です。

さらに、国の面積に対する海岸線延長は約91m/km²で世界第1位、第2位のイギリスは約51m/km²ですから群を抜いています。人口100人当た

りの海岸線延長でも約27mで、これも世界第1位。

ついでに、国連海洋法条約でいう「排他的経済水域*(200海里・約370km)」は447万km²で国土面積の12倍(世界6番目)、「領海*(12海里・約22km)」は43万km²で国土面積以上。このような海岸線の長さ、島の多さ、散らばりが、結果として、私たちに海洋資源の恵みや憩いの場など多大な利益をもたらしているのです。

日本の領海と排他的経済水域の範囲



海上保安庁 HP より引用

このように、「島国」日本は世界有数の「海洋大国」でもあるのです。

* マメ知識 *

領海：日本の主権が及ぶ水域。

(公海：どこの国の主権も及ばない水域。)

排他的経済水域 (EEZ)：漁業資源や鉱物等天然資源の探査や開発に関する権利があり、海洋の科学的調査、資源管理や海洋環境の保全等の義務を負う、水域、海底、海底下。

ボランティアのみなさんが、活動のようすを PR したり、自ら調べたレポートなどを紹介したりするコーナーです。

石狩川河口の砂嘴はいつ成長したか???

1. 松浦武四郎の砂嘴の記録

石狩川河口の砂嘴（クチバシ状の砂浜）は、石狩川が運ぶ土砂と石狩湾の海流・風との合作により形成されました。現在は、グイターセンターの東側が「はまなすの丘公園」になっています。ところで、石狩川河口の砂嘴が今の姿になったのはいつ頃でしょうか。映画「喜びも悲しみも幾年月」で有名な石狩灯台は、明治 25 年(115 年前)に建設されました。

一般に灯台は岬にあります。今の灯台の位置は、砂嘴の先端から 1500m も離れています。

ところが、明治 29 年の地図を見ると、砂嘴は灯台の 200m 先までしかありません。ですから、それ以降に 1km 以上伸びているのです。

もっと昔のこととなると、まず、伊能忠敬の日本全図(約 200 年前)が参考になります。北海道の日本海沿岸と石狩川下流は間宮林蔵が実測していますが、石狩川河口に砂嘴らしきものは見当たりません。それが、150 年ほど前に探検した松浦武四郎のスケッチには、家屋や弁天社の鳥居の地続きとして魚見櫓が立つ立派な砂嘴が描かれています。つまり、灯台が建つずっと前から砂嘴は少しずつ伸びていたわけです。

2. 明治開拓時代に急成長

話を近代に戻します。ここでは、明治 29 年、大正 5 年、昭和 10 年、昭和 43 年の 5 万分の 1 の地形図（国土地理院発行）を参考にします。それ以降については、河口の右岸側に導流堤が建設され砂嘴の伸びはほぼ止まっていますので、省略します。これら 4 枚の地図から、各期間の砂嘴の成長速度（m/年）を計算すると、

期（明治 29 年～大正 5 年）：28m/年

期（大正 5 年～昭和 10 年）：26m/年

期（昭和 10 年～昭和 43 年）：6m/年

となり、昭和 10 年までの 39 年間で合計約 1km 伸びています。なお、期の成長速度を灯台建設の明治 25 年から明治 29 年までの 4 年間に当てはめると、灯台建設時には灯台の 100m 先が河口だったことになります。まさに灯台は岬にあったのです。

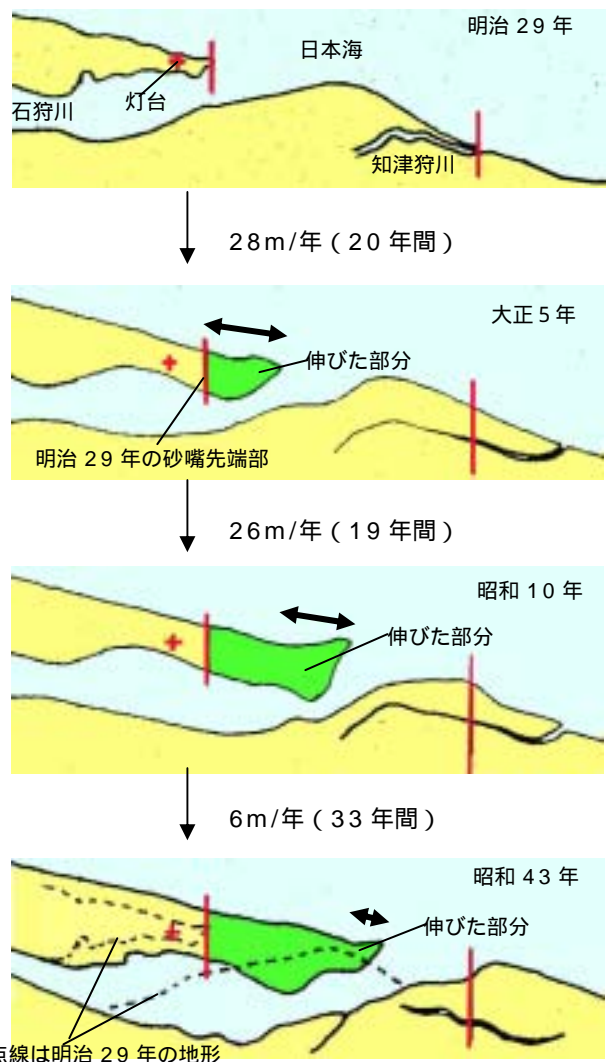
3. これらの成長速度の数値は何を意味するか?

ショートカットによる石狩川の直線化が砂嘴の成長を促したのでしょうか。石狩川下流の 5 つの捷水路が次々完成・通水した時期は、期に該当します。

どうやら、砂嘴の成長は、灯台建設の頃からです。逆に、直線化完了後の期では成長がゆっくりです(昭和 8 年直線化完了)。

それでは、一体何が期に起こったのでしょうか? 大洪水が何度もあった時期です。大洪水の原因とも関係しますが、明治後半から大正にかけての急激な開拓の影響は考えられないでしょうか。すでに大正 10 年頃には、石狩川下流域と中流域の耕地化は昭和 60 年代と同じ範囲まで拡大しています。つまり、アツと言う間にドンドン原始林が消えていった時期なのです。

石狩川河口部の地形の経年変化と成長速度



2007.10.18.

読者のみなさんはどう考えますか？後年、本郷新のブロンズ像「無辜の民」(開拓者の鎮魂碑)が作者の希望により石狩浜の一隅、砂嘴の基部付近に設置されましたが、

砂嘴も開拓者の血と汗と無縁ではないようですね。

(寄稿：寒河江洋一郎)

活動のようす&報告

石狩ふるさと自然塾～2007石狩浜編～修了

18名の受講者が、4月末より、石狩浜の自然や生活に関する話、植生調査とはまなすの丘の開花状況の観察など、石狩浜の自然の基本的な学習を重ねてきました。

8、9月には、野幌森林公園で活動する北海道ボランティア協議会のみなさんと相互交流の機会を設けるなどして自然案内も実践しました。

10月5日、13名が修了証を受け取り、塾終了後も、受講生どうし集まり、活動を続けていくこととなりました。

ボランティア活動

定期観察&開花情報発信

10月3日まで14回、延べ93名が参加して、第1、3、5水曜日に、はまなすの丘の開花状況の調査、記録を行ってきました(10月24日最終)。調査の結果は、撮影した写真とともに、センター展示室で開花情報として来館者に発信してきました。

なお、10月5日から11月3日まで、4月からの記録を一同に展示した「石狩浜の花ごよみ～今年の観察報告～」を開催しています。

外来植物除去作業

10月17日 センター運営委員会、石狩市緑化推進協議会、石狩浜夢の木プロジェクト、石狩植物愛好会、ふるさと自然塾、北大農学研究科などから34名が参加して、はまなすの丘灯台周辺のヒカゲヤブやコシアカの除去作業に取り組みました。

公園花壇づくり

市民に海浜植物に身近に親んでもらうため、6月に市内の紅南公園と花川南公園の2箇所に海浜植物花壇をつくりました。地元ボランティアさんの協力により、秋にはコガネギク、ウンラン、ノコギリソウなどがきれいな花を咲かせ、身近に海辺の花を観察することができました。

行事の開催

9月1日(土)自然観察会

参加者10名。石狩鳥類研究会の樋口さんと岩崎さんを案内人に、石狩川河口の砂浜を巡り、水辺の野鳥や秋の海浜植物を観察しました。(トピックは1ページ)

9月15日(土)こども自然教室

参加者13名。あいにくの天気でしたが、屋内で楽しめるネイチャーゲームで浜の動植物に親しんだ後、ハマナスの実や砂浜の漂着物を集め、午後からは、ハマナスの実のジャムづくり、浜の素材を使ったクラフトを楽しみました。



ハマナスの実を集め、中のタネを除き、煮詰めてジャムにしました。

調査活動

9月には、市民調査員(石狩市環境活動員)4名が、石狩川河口右岸(豊富海岸)の植生概況を調べました。大規模なハマニンニク、ハマナス、ハマハタザオやハマヒルガオの群落が広がっていましたが、数本の車両通行路周辺には、帰化植物が多く見られました。

10月には、北大大学院農学研究科が、石狩浜の車両乗り入れによる植生の破壊状況及び柵設置による回復状況を調査しました。石狩湾新港近くでは、植生保護のための柵を切って侵入する車両が後を絶たず、植生破壊が止みません。



50m四方に渡って広がる巨大なクレーター状の裸地。車輪の跡が無尽に残る。昨年より拡大していた。

問合せ
申込み

4/29～11/3:石狩浜海浜植物保護センター 〒061-3372 石狩市弁天町 48-1 tel.0133(60)6107

11/4～4/28:石狩市役所市民生活部内 〒061-329 石狩市花川北 6条 1丁目 30-2 tel.0133(72)324

email. ihama@city.ishikari.hokkaido.jp

HP: <http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/kaihinsyokubutu/>